

自販機型の在庫棚増設

自動車部品製造のアイコクアルファ

商社が間接材補充 調達や管理時間を削減

自動車部品製造のアイコクアルファ（本社福沢市祖父江町、樋田克史社長）は、工場で保守やメンテナンスに使われる間接材の調達や管理に関する時間を削減した。これまで一宮工場（一宮市）に1基だけ置いていた自動販売機型の棚を、新たに5月に本社工場に3基設置。同棚の管理は商社のミスミ（東京都）が行うことで、調達や受け入れ在庫管理などに必要な時間を削減する。同棚で管理する間接材については、時間を従来比7割以上短縮した。（鈴木隆宏）



導入した自動販売機型の棚（一宮工場）

自動販売機のような棚には、使用頻度の高い工具や手袋を在庫として置いてあり、社員は必要に応じて取り出して使う。月に1〜2回、ミスミが在庫を補充するため、アイコクには発注作業が必要ない。一宮工場では2024年1月から利

用しており、効果が高いと判断して本社工場でも全面的に採用した。それぞれの工場での生産品にあわせ、置いてある間接材は異なる。一宮工場では12種、本社工場では8種を常時設置。ロケインしないと持ち出せないため、必要以上の量を持ち出すこともできない。ミスミは同サービスを「MISUMI floor（フロー）」として4月から本格展開しているが、アイコクでは本格サービス前に試験的に先行導入していた。効果が高いことから、アイコクでは対象品をホルト類などにも広げていく考え。